

「書」にまつわる漢字

シヨ かく

書

古代文字



聿と者とを組み合わせた形。聿は筆を手に持つ形。者は祝詞が入っている（神への祈りの文である祝詞を入れる器の形）である日の上に木の枝を重ね、土をかけて土壘（土の垣）を作る形。土壘の中にお札のようにして日を埋めてまじないとした。そのお札に書いた神聖な文字を書という。書はのちに、「かく、ふみ、書物、文字、手紙」などの意味となり、書道の意味にも使う。

シュ
て・た

手

古代文字



手の形。手首から先の、五本の指を開いた形である。

シ・かみ

紙

古代文字



音を表すのは氏。「かみ」を意味する。古代、古綿などで紙を作った。それで紙は糸へんになっている。

ブン・モン
ふみ

文

古代文字



文身（紅や墨で描いた入れ墨）を加えた形である。正面を向いて立つ男の人の胸に、×、心、Vなどの形の入れ墨を加える。死者の胸にまじないの形として一時的に描いたもので、霊が出ていくのを防いで死者の復活を願ったのであろう。

ジ・あざ

古代文字



宀と子とを組み合わせた形。宀は祖先の霊を祭る廟の屋根の形。子が生まれて一定の日数がたつと、生まれたことを廟に報告する儀式を行う。この時に名がつけられるが、それが幼名、字である。その字が文字となった。

ドク・トク・トウ
よむ

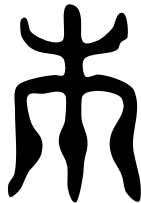
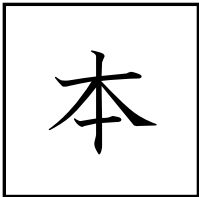
古代文字



もとの字は讀で、音を表すのは賣。賣にトクの音がある。古くは読は、任命書や神への祈りの文である祝詞をよむ意味に使われた。のちに、すべて「よむ」の意味に使うようになった。

ホン・もと

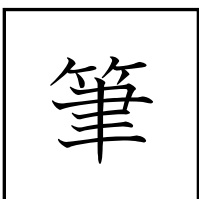
古代文字



木の下の部分に点（・）を加えて、木の下部、木の根本を示す。それで、「ねもと、もと、もとい」の意味となり、物事の「はじめ」の意味に使う。のち、書物を一本・二本と数え、「書物、ほん」の意味に使うようになった。

ヒツ・ふで

古代文字



竹と聿とを組み合わせた形。聿は筆を手（又）に持つ形。筆は竹で作ることが多く、聿に竹を加えた筆は、「ふで、ふででかく」の意味となる。

カン

古代文字



もとの字は漢で、音を表すのは莫。中国陝西省に、漢江（漢水）という川があった。その流域の地を漢といい、この地の王である劉邦が秦に代わって建てた王朝が漢である。のちに、漢は中国の意味に使われるようになった。また、「おとこ」の意味にも使われる。